

5日 金曜

列王Ⅱ

7:11 そこで門衛たちは叫んで、門内の王の家に告げた。

7:12 王は夜中に起きて家来たちに言った。

「アラム人がわれわれに対して謀ったことをおまえたちに教えよう。彼らはわれわれが飢えているのを知っているので、陣営から出て行って野に隠れ、『イスラエル人が町から出たら生け捕りにし、それから町に押し入ろう』と考えているのだ。」

7:13 すると、家来の一人が答えた。「それでは、だれかにこの町に残っている馬の中から五頭を取らせ、遣わして調べさせてみましょう。どうせ、この町に残っているイスラエルのすべての民衆も、すでに滅んだイスラエルのすべての民衆と同じ目にあうのですから。」

7:14 彼らが二台分の戦車の馬を取ると、王は「行って確かめて来い」と命じて、アラムの軍勢を追わせた。

7:15 彼らはアラム人を追って、ヨルダン川まで行った。ところが、なんと、道はいたるところ、アラム人が慌てて逃げるときに捨てていった衣服や武具でいっぱいであった。使者たちは帰って来て、このことを王に報告した。

7:16 そこで、民は出て行ってアラムの陣営をかすめ奪ったので、【主】のことばのとおり、上等の小麦粉一セアが一シェケルで、大麦二セアが一シェケルで売られた。

7:17 王は例の侍従、頼みにしていた侍従を門の管理に当たらせたが、民が門で彼を踏みつけたので、彼は死んだ。王が神の人のところに下って行ったときに、神の人が告げたことばのとおりであった。



7:18 かつて神の人が王に、「明日の今ごろ、サマリアの門で、大麦二セアが一シェケルで、上等の小麦粉一セアが一シェケルで売られるようになる」と言ったときに、

7:19 侍従は神の人に答えて、「たとえ

【主】が天に窓を作られるにしても、そんなことがあるだろうか」と言った。そこで、エリシャは「確かに、あなたは自分の目でそれを見るが、それを食べることはできない」と言った。

7:20 そのとおりのことが彼に実現した。民が門で彼を踏みつけたので、彼は死んだ。

ひどいききんで食べるものがなくなり、ロバの頭や鳩の糞でさえ高価な銀で買われるほどでしたが、全く想像もできないことが起こりました。上等の小麦や大麦が安価に売られるようになったのです。アラムの大軍が残していったからです。もはや大軍は恐れではなく、大量の富をもたらすための存在となってしまいました。

このように思いもよらない恵、主の解決、また全てのことが働いて益となることは、クリスチャンの経験するところです。人間の想像の範囲はどうしても限りがあります。その中で、もう無理だと諦めてしまいがちですが、そうではありません。また解決の道筋や条件についても、一つしかないように思い込みますが、神様はむしろ違うやり方で解決と勝利を与えて、全てが神様のわざであることを明かにされるのです。

「そんなことがあるだろうか」と信じないで、滅んでしまった侍従のようではなく、神様ならできると信じましょう。信仰においては心を定めましょう。そして待つのか、進むのかを主に伺いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

